

金元工作員の来日について

大韓航空機爆破事件の実行犯である金賢姫元北朝鮮工作員が、去る7月20日から4日間来日した。日本政府は、警備上の理由で往復のチャーター機及び滞在先として長野県軽井沢市の鳩山由紀夫前首相の別荘を提供した。そこで金元工作員は、北朝鮮での日本語教育の教官であった田口八重子さんの家族や横田めぐみさんの両親ら多くの拉致被害者の家族と面会している。しかし、日本人拉致問題をめぐる新しい情報が得られないまま、予定した滞在日程を終え、7月23日韓国に帰国した。今回の金元工作員の来日に対して、世論（日経新聞電子版クイックVote）は、約75%の投票者が来日を「評価しない」と判定している。その原因を以下に推論してみた。

1 ポスト来日後の戦略の無さ

仮に金元工作員から日本人拉致被害者に関する新しい情報が得られたとして、政府はその情報をどのように活用するつもりであったのか。ポスト来日後の戦略が全く見えてこない来日であった。もちろん、政府として今後の交渉のために、手の内を全て明かす訳にはいかないことは自明の理であるが、それにしても、今回の政府関係者の答弁からその意識すら全く感じられなかったことが、今回の来日を多くの国民が「人気取り」と解釈した結果であろう。

2 我が国の法律の特例運用の説明なし

金元工作員は韓国で死刑判決を受け、その後特赦により赦免された元死刑囚である。我が国の出入国管理及び難民認定法では、「日本国又は日本国以外の国の法律に違反して、1年以上の懲役若しくは禁錮又はこれらに相当する刑に処せられたことのある者」を我が国への上陸拒否事由の一つに規定している。したがって、金元工作員はこれに該当し入国が認められないのに上陸が許可された。

また、金元工作員は大韓航空機爆破事件に際し、日本人名義の偽造パスポートを使用した旅券法違反の容疑があるが、我が国の警察は、事情聴取を見送っている。

おそらく、これらの措置が我が国の国益にかなうと政府は判断し、入国を許可したものと推測されるが、その理由などに関して一切の説明がなされなかったことに、多くの国民が疑問を感じた結果であろう。

3 重要情報は既に入手済み

金元工作員は、メディアのインタビューの中で、「(田口八重子さんの)詳しい情報は警察に既に話していますから」と答弁していた。「警察」が日本の警察を指すのか韓国の警察を指すのかは不明だが、たとえ韓国の警察であったとしても、日本政府が韓国側に情報請求すれば、現在の日韓関係からすれば、韓国側に拉致被害者の情報を秘匿する理由

は何も無く、日本政府は既に詳しい情報を入手していた可能性がある。多くの国民が何のための来日であったのかと疑問を持った結果であろう。

ところで、政府は、「拉致が解決しない限り、日朝の国交正常化は有り得ない」との方針を堅持している。心情的には十分理解できるところであるが、現実的には全く進展が見込めない状況である。その原因の一つは、過去の拉致被害に関する日朝交渉における我が国の二度の約束違反があると推測される。最初の約束違反は、2002年9月の最初の小泉首相(当時)の訪朝時に、「拉致被害者を一旦北朝鮮に返す」と書面で約束していたが、帰国後「被害者を北朝鮮に帰すとは何事か」との世論に抗しきれず、この約束を破棄してしまった。二度目は、2004年5月の小泉首相(当時)の二度目の訪朝の際、日本側の横田恵さんの遺骨提供に関する約束違反である。巷間言われているこれらの約束違反が事実であるとするれば、拉致のボールは日本側にあるといえる。国交が回復されていない状態で、このボールを北朝鮮側に投げ返す手段を本気で探さない限り、拉致問題は進展しないと判断される。外交ルート、民間(朝鮮総連を含む)あらゆる手段を活用することが求められている状況である。世間の目を本質からそらす、パフォーマンス政策はやめにして欲しいものである。

2010年8月3日 T.O 記